

受賞者氏名	宇都宮 美生
所属	文学部史学科
受賞年月日	2023年4月7日
国内・国外	国内
授与機関等名称	東京大学
受賞名	第4回東京大学而立賞
受賞(研究)内容詳細	<p>受賞対象: 著書『隋唐洛陽の都城と水環境』</p>  <p>368 ページ、A5 判、並製 2023年6月25日発行 雄山閣</p> <p>中国の隋唐時代には洛陽にも首都機能が置かれ、兩京制（二都制）が採られていた。ところが、世界的には長安城研究が深化していることと対照的に、洛陽に対する知識は少なかった。本書の著者は21世紀初頭の建築ラッシュ最中の洛陽でフィールドワークを重ねているうちに、洛陽城の構造が「水」に関与していることに気が付いた。本書は、洛陽を「足」と「目」で調査し、独自の観察力と視点から点と点を結んで全体像を明らかにした成果である。</p> <p>隋唐洛陽城が長安城と大きく異なる点は、都城の形が台形で左右対象でないこと、大きな自然河川と大運河を城内に取り込んでいることである。なぜこのような構造になったのか、そして隋煬帝が建設した洛陽城は何故宋代まで長期間の使用に耐える都城になりえたのか、本書では水環境に着目して洛陽城の特徴を導き出した。各章が有機的につながり、一貫した理論で全体像が把握できるように構成されている。自然水系と経済的基盤として建設された運河を内包した総合的な都市水利という視点から、隋唐洛陽城の立地と構造を検証し、煬帝が目指した都城理念と唐高宗・武則天に受け継がれた都城運営を考察することにより、水利史・都城史研究における洛陽城の歴史的意義を明らかにしている。（UTokyo Biblio Plaza 掲載の文章を一部転載）</p> <p>【関連サイト】 賞について： https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03_kankojosei.html 本について： https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/A_00243.html</p>